日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

茨城県支部

日赤茨城

2022. 冬号

Red Cross Ibaraki

関東甲越支部合同救護訓練での災害対策本部の様子

国内で初めて新型コロナウイルス感染者が確認されてから約2年。多くの方がうがい、マスク着用や手指消毒といった感染症への備えが習慣化したのではないでしょうか。

一方、災害に対しての備えはどうでしょうか。

災害大国といわれる日本において、自然災害への備えは、いざという時に自分や周囲の人を救うことに繋がります。

日本赤十字社では、様々な訓練を通して「いのちを救う」ことに備えるとともに、防災セミナーや救急法等講習の普及をすることで「防災・減災」を啓発する活動を続けています。

感染防護具を身に着けての訓練

県内の赤十字活動をSNSで発信中！

発行元

日本赤十字社 茨城県支部
〒310-0914 茨城県水戸市小吹町 2551
TEL.029-241-4516　FAX.029-241-4714

いのちを守る 災害への備え

毎年、日本のどこかで災害が起こり、大きな被害をもたらしています。

しかし、日頃から災害への備えを行っている人の割合は、約5割※です。いいかえれば、2人に1人は何の備えもしないまま災害に遭う可能性があります。

災害に備えることは、自分や家族の「いのちを守る」ことに繋がります。

ぜひ、日常生活の中で「防災・減災」を意識した行動をとりましょう。

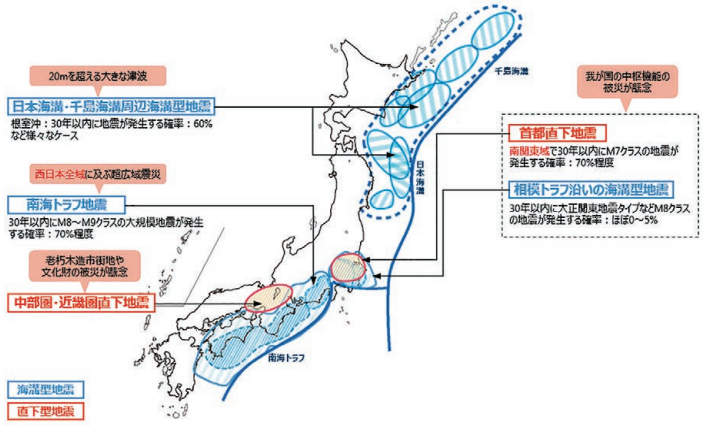
※出典「東日本大震災に関する調査」2020年日本赤十字社

今後、発生が予測される大規模災害

近年の自然災害は、多様化・激甚化、そして広域化しています。

近い将来、発生の切迫性が指摘されている大規模地震は、日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震、南海トラフ地震、首都直下地震、中部圏・近畿圏直下地震です。ともに東日本大震災（2011年）を超える大きな被害が想定されています。

昨年12月、政府は日本海溝・千島海溝沿いでマグニチュード9級の巨大地震が起きた際の被害想定を公表しました。この地震及び津波により、茨城県は最大で死者800人、全壊建物600棟に及ぶ被害が想定されたことで、被害を抑えるためにより一層の県民の防災意識向上が求められています。



想定される大規模地震

※内閣府 防災情報のページから引用

コロナ禍の災害と日赤医療チームの感染対策

新型コロナウイルス感染症により、災害現場や避難所では、これまで以上に感染対策が求められるようになりました。

日本赤十字社では、令和2年7月豪雨災害（熊本豪雨）での救護活動において、派遣された医療チームは、ウイルスを「持ち込まない」・「持ち出さない」・「拡げない」を意識し、活動前・中・後のPCR検査の実施や資機材を使用する際は都度消毒を行うなどの感染対策を徹底しました。

災害時においても、感染対策をとることが被災者や救護員の「いのちを救う」ことに繋がります。

避難所 巡回診療の様子

©Atsushi Shibuya/JRCS

地域の「防災・減災」を支える　防災ボランティアの養成

日本赤十字社の災害救護活動や防災啓発事業は、多くの防災ボランティアの皆さまによって支えられています。

茨城県支部では、災害時にボランティア活動をする「赤十字防災ボランティア」のほか、防災セミナーの指導者となる「防災啓発プログラム推進員」を養成し、地域の防災力向上を担っています。

【赤十字防災ボランティアの主な役割】
（登録数は令和3年3月末時点の県内人数）

① 防災ボランティアリーダー　（登録数5人）

災害救護におけるボランティア活動のコーディネーター

- 活動の企画やボランティアの派遣等の全体的な調整
- 防災ボランティア研修や訓練の指導

② 防災ボランティア地区リーダー　（登録数43人）

被災地のボランティアセンター等の運営支援ボランティア

- 一般ボランティアの受付や活動の調整

③ 防災ボランティア　（登録数7,829人）

被災地や茨城県支部で活動する赤十字ボランティア

- 避難所等での炊き出しなど被災者の支援（地域奉仕団）
- アマチュア無線や看護、語学といった特殊技能や若さを活かし、支部や被災者の支援等（特別奉仕団）

④ 防災啓発プログラム推進員　（登録数136人）

地域において「防災・減災」の知識等を普及する指導者

- 防災セミナーの企画や講演

ボランティアセンターでの支援訓練

防災ボランティアに関心のある方は、茨城県支部事業推進課までお問い合わせください。

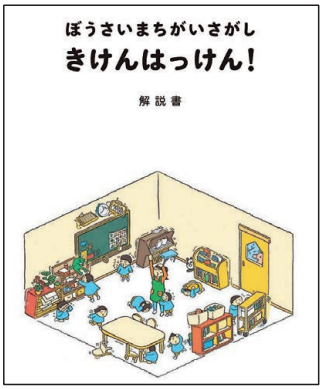
未来を担う子どもたちを守るために　防災教育の普及

日本赤十字社は、青少年が健康と安全を守り、学校や地域、家庭での防災意識を高めることを目的に、園児向け「ぼうさいまちがいさがし　きけんはっけん！」と児童・生徒向け「まもるいのち　ひろめるぼうさい」の防災教材を制作しました。

茨城県支部では、県内全ての幼稚園・保育所、小・中・高等学校に防災教材を無償で配布しました。

両教材を通して、子どもたちが防災について主体的に取組み、知識と行動力を身につけるだけでなく、他者への思いやりや優しさ、いのちの大切さを学び取る力を育むことができます。

高萩市内の放課後子ども教室



茨城県支部の活動報告

中・高校生向け青少年赤十字(JRC) オンライン講座を開講

県内の中・高校生JRC※メンバーに向けて、オンライン講座「リーダーシップ・トレーニング・セミナー」を開講しました。

本セミナーは、希望したJRC加盟の中・高等学校に対し、国際交流やSDGsなど青少年赤十字に関する8つの講座を提供し、JRCメンバーにオンラインで受講いただくものです。

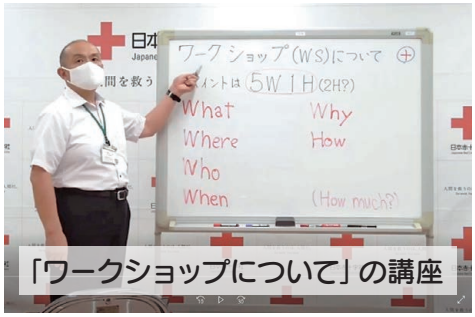
10月1日から11月30日までの期間に実施し、延べ200名を超えるJRCメンバーが受講しました。

国際交流の講座を受講したJRCメンバーからは、「本当に言葉が分からない状況になったら絶対あせるし、不安になると思った」「世界はもっと他国の人々に優しくなるべきだと思った」「何か対策はないか考えてみたい」などの感想が寄せられました。

また、茨城県支部では、県内のJRC加盟小・中・高等学校向けに赤十字やコロナ感染対策、SDGsについて出前講座を実施しています。

子どもたちに赤十字を知ってもらうことはもちろん、社会情勢やトレンドを意識してボランティア活動に取組んでいただくことを期待しています。

※JRC(Junior Red Crossの略称)



「ワークショップについて」の講座

「心肺蘇生とAEDの使い方」の講座

「SDGsについて」の講座

オンラインで「赤十字の職業体験」

新型コロナウイルス感染症の影響により、職業体験などの社会勉強の機会が減ってしまった中学生に対し、オンライン上で赤十字の仕事を学び、疑似体験できる映像コンテンツを県内赤十字施設合同で制作しました。

映像は、県内赤十字施設の仕事についての「紹介」と「体験」をテーマに制作しており、災害救護時の先遣要員の仕事体験や病院薬剤師、乳児院保育士などの日常業務をオンライン上で体験できるものです。

今年度は、作成した映像を県内全ての中学校に案内し、学校の授業のなかで社会勉強の機会として活用いただきます。

救援車両を紹介する職員

調剤の方法を薬剤師目線で紹介

赤十字ボランティアについて学ぶ「赤十字奉仕団基礎研修会」

県内の新型コロナウイルス感染状況が落ち着きをみせた12月、茨城県支部では、赤十字ボランティアを対象とした「赤十字奉仕団基礎研修会」を開催しました。

本研修会には、奉仕団入団3年以内の団員を対象に2日間で73名が参加し、赤十字の誕生の歴史や基本原則といった基礎知識だけでなく、ボランティア活動において意識すべきことなどを支部指導講師から学びました。

参加者からは「研修で学んだことを地域の奉仕活動に活かしたい」などの声が寄せられました。

奉仕団基礎研修会の様子

自宅や職場で気軽に受講できる「オンライン赤十字講習」

茨城県支部は、これまでの対面型講習に加え感染対策に配慮したオンラインによる救急法などの講習に取組んでいます。

昨年の8月と9月は小学生児童とその親44組108名が、また、11月は幼稚園教諭や保育士など延べ158園424名が、それぞれの自宅や職場など都合の良い場所から、パソコンやタブレットなどを用いて講習に参加し、心肺蘇生の手順の確認やペットボトルを用いた胸骨圧迫を練習しました。

受講者からは、「命の大切さを親子で学べた」、「心肺蘇生の手順を確認できた」、「仕事が忙しく参加は難しいが、オンラインで手軽に参加できた」などの感想が寄せられました。

これからも、より多くの方に命を救う知識と技術を普及するため、参加方法等について工夫を凝らして講習を開催してまいります。

オンライン講習を自宅で受講する児童

国際人道支援をつなぐ「NHK海外たすけあい　募金キャンペーン」

本キャンペーンは、紛争や自然災害などで人道支援が必要な世界中の人々を救うことを目的に、日本赤十字社とNHKが共同で毎年12月に実施している募金キャンペーンです。

昨年も多くの皆さまにご協力をいただきました。

12月1日にNHK水戸放送局で行われたオープニングセレモニーでは、茨城県立水戸第二高等学校の生徒（青少年赤十字メンバー）から「海外の困っている人のために役立ててください」というメッセージとともに、学校で集めた募金を届けていただきました。

お寄せいただいた募金は、安全な水、小児用医薬品といった物的支援や、保健衛生教育の普及活動として日本赤十字社を通じて現地に届けられます。

JRCメンバーから募金を受け取る寺門支部長

県内赤十字施設の活動報告

水戸赤十字病院

『日本人間ドック学会 人間ドック健診施設機能評価の認定承認』

人間ドック健診施設機能評価は、皆さまが安心で安全な人間ドック健診を受けられるよう、施設を96の要素で審査・評価する制度です。

日本病院会及び日本人間ドック学会による審査の結果、昨年7月に認定施設として承認されました。今回の審査で当院の優れている点や改善すべき点を把握し、積極的に質の向上に取組むことができました。

これからも皆さまに期待される人間ドック施設を目指して、職員一丸となり業務運営に取組んでいきます。

健康状態や生活習慣の確認、病気の早期発見のために年1回の人間ドック受診をぜひご検討ください。

古河赤十字病院

当院は、古河市からの要請を受け、新型コロナワクチン集団接種を実施しました。

薬剤部では、ワクチンを詰める作業を行い、調製数は1日最大で240人分と多い日もありましたが、調製マニュアルを作成し、安全安心を第一に市民の皆さまに提供することができました。

また、国から支給されるシリンジや針が頻繁に変更される中、職員同士で器具の特徴を共有し、集団接種全体の流れに影響が出ない対応を心がけ、茨城県の「ワクチン廃棄ゼロへの取組み」がすすめられている中、“ワクチンを無駄にしない” 調製運用を行うことができました。

血液センター

献血ルーム及び献血バスの会場では、コロナ禍であっても皆さまに安心して献血にご協力いただくために、手指消毒・検温・換気などの感染予防策を講じつつ、三密回避と待ち時間短縮のため、予約献血をお願いしています。従来予約ができなかった献血バスでも、web会員限定の予約システムを導入し、ご協力いただける方が増えています。

また当センターでは、献血推進の取組みとして、献血やセミナーが中止になってしまった中学校・高等学校に向けて、献血のことや血液センターの業務内容を紹介する動画を制作し、YouTubeで配信しています。（右記二次元コードから閲覧可能です。）

今なおコロナ禍の影響は大きく、献血にご協力いただける企業・団体が減少し、献血会場の確保が困難な状況が続いています。しかし、輸血を待つ患者さんのため、コロナ禍においても皆さまからの献血が必要です。

献血は不要不急にはあたりません。ぜひ献血にご協力をお願いします。

乳児院

昨年は、コロナ禍のなかで今までとはガラリと違う生活となりました。院内での生活が中心となりつつも、子どもたちが季節を感じたり伝統行事を楽しく体験できるよう、創意工夫の一年でもありました。

初夏は、室内に雨粒や虹の装飾をして、梅雨の情景の中でレクリエーションをしました。小麦粉粘土や風船マットで感触を味わったり、ミニ運動会をして簡単な障害物競走を楽しんだりと、普段とは一味違った遊びを楽しみました。

秋は、さつまいも掘りに出掛けたり、ハロウィンの仮装をして近隣の施設を訪ねたりと、少しずつ地域の方との交流もできるようになりました。院内の秋祭りでは、おもちゃのお金を使って出店を回り、欲しいおもちゃや駄菓子を買って大満足の一日となりました。

子どもたちが心も体も健やかに育つよう、これからも心を尽くしていきたいと思います。

皆さまのご支援（ご寄付）が活動の財源です

近年の自然災害は、多様化・激甚化の傾向にあり、避難所生活の長期化も予想されます。赤十字は、被災された方々の健康を守るため、皆さまから寄せられる活動資金を財源に、毛布や緊急セットなどの救援物資を整備しています。

例えば、5,000円のご寄付で　4人分の緊急セット

茨城県支部では、避難所生活時に必要となる毛布や緊急セット（日用品）などをお届けし、被災された方々の健康と安心を守ります。

ご協力方法

お振込：本紙に付属した払込取扱票（ゆうちょ銀行）をご利用ください。

クレジットカード：ホームページからお手続ください。　赤十字 寄付　検索

遺贈（遺言や相続財産による寄付）：資料を送付のうえ、詳細をご説明します。

この払込取扱票は、ご寄付を強制するものではありません。ご賛同いただきましたら、ご支援いただけると幸いです。

各票の※印欄は、ご依頼人において記載してください。

払　込　取　扱　票

99 東京

口座記号番号														金額	千	百	十	万	千	百	十	円
0	0	1	0	0	―	0	―		7	8	9	8	7	2	※							

加入者名　日本赤十字社茨城県支部

料金　　備考　免

ご依頼人・通信欄

おところ ※

おなまえ ※

お電話番号

◎お礼状と領収書が不要な場合は☑をお願いします。　□不要

◎このチラシをどこで手にしましたか☑をお願いします。

□市報・町内会の回覧　□イベント

□赤十字講習　□当支部からの郵送

（救急法・水上安全法・幼児安全法・健康生活支援講習）

□その他（　　）　R3 日赤茨城（冬号）

日附印

裏面の注意事項をお読みください。（ゆうちょ銀行）（承認番号東第53203号）

これより下部には何も記入しないでください。

切り取らないでお出しください。

振替払込請求書兼受領証

口座記号番号	0	0	1	0	0	―	0						
								7	8	9	8	7	2

加入者名　日本赤十字社茨城県支部

金額	千	百	十	万	千	百	十	円
	※							

ご依頼人　おなまえ ※　様

料金　　日附印

備考　免

記載事項を訂正した場合は、その箇所に訂正印を押してください。

この受領証は、大切に保管してください。

「反射材グッズ」で高齢者を守ろう！

令和2年度、茨城県内では、交通事故死の約6割が高齢者であり、その半数が夜間帯の事故によるものでした。※

そうした現状を踏まえ、茨城県支部では県警察本部と連携し、県赤十字有功会の協力も得て、高齢者の交通事故防止に役立つ反射材グッズを作製。グッズの一部は秋の全国交通安全運動にあわせ茨城県交通安全協会を通じて配布されました。

※出典「令和2年中の交通事故発生状況」茨城県警察本部

マグネットクリップ

手袋

(左から)小田部 有功会長、寺門 支部長
櫻井 協会専務理事、岡田 県警交通部長

不要となった書籍やCDを使った支援

書籍やCD、ゲームソフトなどの物品をブックオフコーポレーション株式会社に贈与し、その買取価格相当額を様々な団体へ寄付できるサービス「キモチと。」をご存知でしょうか。

日本赤十字社は、「キモチと。」の寄付先として登録されており、これまでに多くの方からご支援(寄付)をいただきました。

自宅で眠る不要な書籍やCDがありましたら、ぜひご利用ください！

詳しくはブックオフコーポレーションの
サイトをご覧ください➡

キモチと。
powered by BOOK・OFF

資金の有効活用のため、この受領証をもって日本赤十字社の受領証にかえさせていただきます。
なお、本受領証は、免税証として利用いただけます。

払込みいただいた金額は個人については、所得税法第78条第2項第3号の規定に基づく寄付金に該当し、法人については、法人税法第37条第4項に基づく寄付金に該当します。

〒310−0914　日本赤十字社
茨城県支部　組織振興課
電話 029−241−4516

〈ご注意〉
・この用紙は、機械で処理しますので、金額を記入する際は、枠内にはっきりと記入してください。また、本票を汚したり、折り曲げたりしないでください。
・この用紙は、ATMではご利用いただけません。
・この払込書を、ゆうちょ銀行又は郵便局の渉外員にお預けになるときは、引換えに預り証を必ずお受け取りください。
・この用紙による、払込料金は無料となります。
・ご依頼人様からご提出いただきました払込書に記載されたおところ、おなまえ等は、加入者様に通知されます。
・この受領証は、払込みの証拠となるものですから大切に保管してください。

この場所には、何も記載しないでください。

町内会・自治会を通したご協力のほか、ご都合にあった方法で受付ております。
この払込取扱票は、ご寄付を強制するものではありません。